

## 投票率を上げるには!?

みなさんは選挙時、投票に行っていますか？オーストラリアの選挙の投票率は毎回95%前後もあります。理由は、投票に行かないと二千円程度の罰金があるからです。では、市川市ではどうでしょうか。2009年の市長選挙で30%。2005年で25%。市川市の有権者の4人に1人程度しか行っていません。2007年、2003年の市議会議員選挙でも40%前後と、2人に1人も行かない状態と低調です。

そもそも、投票率を上げるメリットとは何でしょうか。幾つか考えられそうですが、『「多数者による統治」という民主主義の原則を実現でき、より高いレベルの民主的正統性を得られる。』というのが一番だと思います。逆の言い方をします。私は「投票率が低い政治は民主的正統性が低いのではないか？」という仮説を持っています。少し古い話で恐縮ですが、10年前に当時の森喜朗首相は、浮動票の行方について「関心がないと言って、そのまま寝てしまってくれればいいんだが」という発言をし注目を集めました。つまり、低い投票率によって恩恵を受けている人達が存在します。そして、恩恵を受けているのは私達市民ではありません。別の面を指摘します。低い投票率によって選ばれた政治家達で構成する議会、市長、国会等は、本当に私達が望むベストな状態なのでしょうか。今、仮に政治に不満があるとすると、そこに根本の原因があるように思います。

では、投票率を上げるためにはどうすれば良いでしょうか。オーストラリアのように罰金!というのも一案ですが、不投票者への調査・罰則適用には、経費がかなりかかります。ですので、私の望む施策は「選挙に行った人のその年の市民税を1%減税する。」です。これにより、選挙の投票率が高まっていけば、副次的ではありますが、選挙の宣伝費用の削減も見込める等、他のシナジー(※相乗)効果も期待出来ます。

「今の社会がベストな形なのだろうか?という事を話し合ってみて下さい。」ほんの少しの問題意識が集まっていけば、少しずつ、良い社会、街が形成されると思います。今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ♪

平成22年4月19日

増田好秀